第７３回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

鳥 取 県 実 施 要 領

１　趣　旨

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。昭和２６年に始まり、今回で第７３回を迎えます。

本作文コンテストは、次代を担う全国の小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことを基に、犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたことを作文に書くことを通じ、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

なお、本作文コンテストは、第４３回“社会を明るくする運動”（平成５年）から全国表彰が始まり、今回で３１回目となります。

２　主　催

　　第７３回“社会を明るくする運動”鳥取県推進委員会

３　後　援

　　鳥取県教育委員会、鳥取県保護司会連合会、更生保護法人鳥取県更生保護観察協会、鳥取県更生保護女性連盟、鳥取県ＢＢＳ連盟

４　応募規定

**（１）応募資格**

鳥取県内の小学校及び中学校に在学する児童・生徒

**（２）テーマ（内容）**

“社会を明るくする運動”の趣旨を踏まえ、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことを基に、**犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて**考えたこと、感じたことなどを題材としたものとします。

**（３）原稿の枚数**

４００字詰め原稿用紙３～５枚程度

1. **応募方法等**

・　下記の「審査基準」を参考にして、各学校で審査の、**優秀作品３作品（甲乙つけがたい場合はプラス１作品）**を応募してください。

・　出品する作品には、**別紙「応募票」を必ず添付**してください。

**（５）審査基準**

・　本作文コンテストの趣旨にふさわしい内容であること

・　経験または事実を踏まえた内容であること

・　正しい原稿用紙の使い方ができていること

・　指定された字数に収まっていること

・　自作・未発表の作品であること

・　原則として原本かつ手書きのものであること（ただし、応募者の持つ様々な

特性に応じた合理的配慮を行います。）

**（参考）“社会を明るくする運動”中央推進委員会における審査基準**

|  |  |
| --- | --- |
| 審査項目 | 視　　　点 |
| 趣　旨 | ・「犯罪や非行のない明るい社会つくり」「犯罪や非行をした人の立ち直り」という“社会を明るくする運動”の趣旨を踏まえているか。  ・日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことなどを基に、犯罪や非行、地域社会における交流などに関して考えたことや感じたことが書けているか。 |
| 内　容 | ・自分の意見、考えたこと、感じたことが取り上げられているか。  ・自分の体験や経験に基づいているか。  ・創造性、独創性があるか。  ・読み手の心に響くものがあるか。 |
| 表　現  形　式 | ・読み手を引きつけるような文章であるか。  ・読み手が読みやすい文章であるか（文章の構成がしっかりしているか）。  ・具体例が挙げられているか。  ・効果的で工夫された書き方をしているか。  ・用字、符号の用い方や、原稿用紙の使い方が適切であるか。 |

**（６）応募締切**

**令和５年９月１１日（月）**

**（７）応募先及び本コンテストに関する照会先**

　　　〒680-0842　鳥取市吉方１０９　鳥取保護観察所企画調整課内

第７３回“社会を明るくする運動”鳥取県推進委員会事務局

　　　　　　Tel ０８５７－２２－３５１８　　FAX ０８５７－３７－０４９８

５　表　彰

出品された作品については、主催者において審査を行い、次のとおり小学生、中学生の部ごとに表彰します（各賞に応じて記念品として図書カードを贈呈）。

なお、応募者全員に参加賞を準備しています。

1. **最優秀賞**

“社会を明るくする運動”鳥取県推進委員会委員長賞 小・中学生各１名

**（２） 優秀賞**

・鳥取保護観察所長賞 小・中学生各１名

・鳥取県保護司会連合会長賞 小・中学生各１名

・鳥取県更生保護観察協会理事長賞 小・中学生各１名

・鳥取県更生保護女性連盟会長賞 小・中学生各１名

・鳥取県ＢＢＳ連盟会長賞　　　　　　　　　　　 小・中学生各１名

**（３）中央推進委員会への推薦等**

小・中学生の各部の最優秀賞受賞作品と優秀賞受賞作品（うち２作品）の計３作品ずつを“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催の作文コンテストの応募作品として推薦します。

1. **各賞の発表及び表彰状の伝達**

・　鳥取県推進委員会の各賞は、令和５年１０月上旬頃に発表し、県・地区推進委員会又は所属学校長を通じる等して伝達します｡

* + 各賞については、鳥取県保護司会連合会が発行する機関紙「更生保護とっとり」

の紙面などにおいて発表します。

・　中央推進委員会の各賞は、令和５年１２月中に発表され、最優秀賞は、中央推進委員会（東京・法務省）において、優秀賞については鳥取県推進委員会において伝達します｡

６　その他

1. 応募作品の著作権は、主催者に帰属するものとします｡また、作品の公表及び掲載に当たっては、作品の趣旨を損なわない範囲で一部修正することがあります。
2. 受賞作品については、氏名、学校名、学年及び作品名及び作品内容が、報道機関、機関紙、インターネット等で公表される場合があります。あらかじめ保護者の承諾が得られていることを前提とします。
3. 応募作品は原則として返却しません。

**第７３回“社会を明るくする運動”作文コンテスト**

**応　募　票**

　　　　　　　　　　　　　　第７３回“社会を明るくする運動”鳥取県推進委員会

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 学　校　名 | 市町村立　　　　　　　　小学校  　　　　市町村立　　　　　　　　中学校 | | | |
| 電話番号 | | （　　　　）　　　　－ | |
| 担当教諭 | |  | |
| 校内応募総数 | 点 | | | |
| 出品優秀作品 | １ | 題 | |  |
| 学　　年 | |  |
| （ふりがな）  氏　　名 | |  |
| ２ | 題 | |  |
| 学　　年 | |  |
| （ふりがな）  氏　　名 | |  |
| ３ | 題 | |  |
| 学　　年 | |  |
| （ふりがな）  氏　　名 | |  |
| ４ | 題 | |  |
| 学　　年 | |  |
| （ふりがな）  氏　　名 | |  |

**◎応募作品には必ず本票を添えてください。**

参考

**【小学生の部　最優秀作品】**

**大切な命を守るために**

**八頭町立八東小学校　５学年**

　わたしは、命は大切だと分かっています。でも、あまり深く考えたことはありませんでした。けれど、最近、命は大切だなと深く考えた出来事が二つありました。

　一つ目は、七月に鳥取県で大雨が降ったときのことです。

　その日は、朝から雨が降っていて、強く降るときもありました。学校が終わって集団下校で帰りましたが、かさをさしていても服やランドセルがぬれるほど、すごい雨でした。無事に家に着きましたが、わたしの家の近くには川や山があるのでこわくなってきました。

　その後、家族で相談して、祖母の家にひなんすることにしました。車で三十分くらいかかりました。祖母の家に着いたときは、ほっとしました。「あのまま家にいて土砂くずれが起きていたら」と考えるとこわくなってきます。命の大切さとともに、家族といっしょにいることのありがたさも感じました。

　二つ目には、家族六人を殺害してしまった人の事件を聞いたことです。

　テレビのニュースでこの事件を知り、家族六人を一人の手で殺してしまって、多くの命がうばわれたことが分かりました。亡くなった子どもは三才から十一才だったそうです。

　このニュースを聞き、とても悲しい気持ちになりました。まだたくさん使える命をなくしてしまっているからです。どうして犯人は、大好きな家族を殺害してしまったのか、わたしはとても不思議でした。

　そんなとき、担任の先生から「社会を明るくする運動」について話を聞きました。これは「犯罪や非行の防止」や「安全で安心な地域社会を築く」ことを目的とした全国的な運動だそうです。

　この話を聞いて、犯罪を犯してしまった人は、どんな気持ちだったのか、想像してみました。

　犯罪の原因の一つに「貧困」があると聞いたので、家族を殺害することでお金が手に入ると思ったのかもしれません。また、家族とうまく関わることができず、こどく感を持っていたのかもしれません。そう考えると、犯人が少しかわいそうに思えてきました。だからと言って、犯罪を起こすことは絶対にいけません。

　そこで、周りの人を支えるために、自分の立場で何ができるかを考えてみました。

　まず、声かけが必要だと思います。声かけによって、その人が困っていることが分かってきます。その上で、手助けをする方法をいっしょに考えていきたいです。

　そして、相手の立場に立って考えることも大切だと思います。もし子どものころにぎゃくたいをされた人がいたら、やさしくよりそって、温かい気持ちで接してみたいです。

　また、周りの人としっかりつながることも必要だと思います。わたしは、今回の大雨のときに、家族といっしょにいると安心できることを体験しました。ふだんから何でも話せる関係を築くことが大切なので、家族だけではなく、友達や地域の人ともたくさん会話をしていきたいです。

　将来、悪いことが一つも起きない社会になると、幸せな人でいっぱいになると思います。だから、そんな未来をめざして「社会を明るくする運動」に参加して、たくさんの人が幸せになれるように、また、大切な命を守るために、声かけやよりそうことなど、自分にできることをしていきたいです。

**【中学生の部　最優秀作品】**

**おばあさんから教わったこと**

**鳥取市立気高中学校　２学年**

僕が小学生の時、毎朝、僕たちの登校を見守ってくれるおばあさんがおられました。その方は、前を通る五十人以上の小学生全員に、毎日大きな声で「おはよう」と声を掛けてくださっていました。また、帰るときも「お帰り」と声を掛けてくださいました。

僕は、小学校高学年までは、知らない人に自分から挨拶するのが苦手でした。それに、もともと朝が苦手で、「おはよう」の声があまり出ませんでした。けれども、そのおばあさんや友達が掛けてくれる毎朝の「おはよう」のおかげで、少しずつ自分から「おはよう」が言えるようになり、元気に登校できるようになっていきました。今から思うと、僕にとっておばあさんの「おはよう」「お帰り」が毎日の元気の源となっていました。挨拶の力はすごいものだと思います。

　その後、中学生になった僕は、ある日、近くのスーパーへ買い物に行きました。その帰り道、僕はあることに気付きました。それは朝近くと通ったときよりも、道端の花壇がきれいになっていたことです。「たしか、朝は花壇に草がたくさん生えていたような気がするけど…。誰かが草を取ったのだろうか。」そんなことを考えながら帰っていると、小学校の時よく挨拶してくださったあのおばあさんを見かけました。なんと、そのあばあさんが花壇の雑草を一本一本丁寧に取られていたのです。僕は「この町内にはとてもたくさんの花壇があるはずだ。まさか、おばあさんは全部の花壇の草を取られるつもりだろうか？いったい何のために花壇の整備をされているのだろうか？」と思いました。でも、次の日も、おばあさんは別の花壇の草を取っておられました。周りを見ると、周りの花壇の全てがきれいに整備されていました。その花壇の前を通っていると、顔を覚えてくださっていたらしく、僕に声を掛けてこられました。そこで、おばあさんと中学校の話を少ししました。僕は、バレーボールをしているので、その話をしました。でも、やっぱり花壇のことが気になっていたので、「なんでこんなにたくさんある花壇の整備をしているんですか。」と聞いてみました。すると、おばあさんから、予想しなかった答えが返ってきました。「花が好きだから。それに、花がきれいだと、見る人の心もきれいになる、そうすれば、誰もが人のことを思いやって生活できるでしょう。」その言葉を聞いたとき、僕はとても驚きました。そして、とても感動しました。公共の花壇をきれいにしても自分が得することは無いかもしれないのに、町のみんなのために行動できるなんて、すごい人だと思いました。

僕はそのことがあってから、意識して「自分が人のために何かできないか。」「自分でも取り組める何かがありはしないか。」と思って生活するようになりました。でも、今の僕の目には、なかなか気軽に取り組めるものが見つかりません。だから今は、まずは自分から周りの人に元気よく挨拶をして、少しでも他の人が明るく過ごせるようにと思って生活しています。